

週日の説教

金 大烈 神父 2010年8月5日(木)

《基準はいつも、神様ならばどう思われるか》

今日の福音(マタイ 16・13 23)では、ペトロは、天国へ行ったり地獄へ落ちたりして忙しかったですね。イエス様から「天国の鍵を授ける」とさえ言われたペトロ。しかしそんなに悪い話をしたわけではなく、ただイエス様のために、そして自分達のために「それはとんでもないことです。あなたが私たちから離れるなどあってはなりません。」と話したただけなのに「サタン」と言われてしまいます。『サタン』は、『悪魔』のことですね。

今日の福音を分かりやすく考えてみましょう。ペトロは教会を表します。つまり、この教会、そして教会のメンバーである私達一人ひとは、いつでも天国にも地獄にも行く可能性があることをイエス様がおっしゃっているのです。私達は、『教会』といえ、理想的な姿を頭に思い浮かべています。だから、少しでもその理想から外れている人に会うと腹が立ちます。そしてその人を非難しようとしてしまいます。しかし、教会の構成員である私達自身は、いつも不安定な状態なのです。完成されたものではなくて、完成に行く途中の人々なのです。ですから、少し足りない人もいるし、少し進んでいる人もいます。

人を非難する気持ちになる時、教会の中で分裂のような争いが生じた時には、まず自分の価値観ではなくて、イエス様ならばどう思われるかを考えるべきです。 そのように考えられる人が三分の一でもいれば、その教会はますます素晴らしい共同体になると思います。

しかし実際はどうか、よく考えてみてください。人と意見がぶつかる時に、自分の意見を勝たせようとするので、いつも前が見えなくなり、気分が悪くなっているのが、今の教会、過去の教会であり、そして未来の教会になるかもしれません。

しかし今日イエス様は、はっきり教えてくださいましたね。今日の福音の最後の部分でこのように話していますね。「あなたはわたしの邪魔をする者。神のことを思わず、人間のことを思っている。」と。そうです、人間のことを思うので、いつも私達はお互いに痛みを与えあうところまで行ってしまわないでしょうか。

今日の福音で考えなければならないことは、私達の中にも、天国に行ける可能性も地獄に陥る可能性もあるということです。そして自分の中で、どちらが自分らしい選択になるのか迷う時、葛藤が生じる時に、“イエス様ならばどのように思われるのか”が基準になれば、自分の利己的な判断になることを少しでも避けられるのではないかと思います。

基準は必ずあります。そしてその基準を中心にして考えれば、必ず何が正しい答えかすぐに分かります。しかし、悪魔はそこを狙っています。考え方の基準を思い出させなくするのです。思い出すことを邪魔しようとするのです。自分のプライドや自分のことばかり考えさせて、「自分が攻められたの

だから、反撃しなければならない」という動物的な本能を刺激するのが悪魔のいたずらではないかと思えます。

今日の福音を読んでよく考えてみましょう。ペトロは絶対に悪い話をしたわけではありません。ただ、神様のみ旨に従わないことをしただけです。そのために、「サタン(悪魔)」という激しい叱りを受けたペトロの心を考えてみましょう。そしてそのような「サタン」と呼ばれた弱虫のペトロに、神様は天国に行く鍵さえ授けられたのです。そういうことにも本当に大きい意味があることをもう一回考えてみましょう。

ありがとうございました。